

くにたち 公民館 だより



発行
 国立市公民館
 〒186-0004
 国立市中1-15-1
 ☎ 042-572-5141
 FAX 042-573-0480
 休館日：毎週月曜日

連続講座『ポスト「3.11」 社会のカタチ 私たちのオモイ』第1回【講演要旨】

3.11から歩き、見て、考えたこと

～東北学の視点から～

お話 赤坂憲雄(学習院大学、福島県立博物館館長)

公民館では「3.11」後の社会のあり方をじっくり考える連続講座を企画しました。第1回の講師、民俗学者の赤坂さんのお話を紹介します。



30年の時が早直し されてしまった

2011年4月初めから、僕はひたすら被災地を歩くことだけをしてきました。この震災が何をもたらしたのか。社会の中で隠されていた現実があらわになってしまったということ、そしてこれから20年か30年後に訪れるはずであった世界が、今ここに出現してしまったということではないでしょうか。

たとえば三陸の被災地の状況です。内陸部と比べると、ずいぶん少子高齢化と過疎化が厳しい形で進んでいる地域でした。その沿岸部の村や町が、地震と津波によって洗われて、何もなくなってしまう。震災から2カ月もたたず、三陸のある半島では、3つか4つの集落が解散式をして、貯金していたわずかなお金を分配し、それぞれに散っていくということが行われました。東京のメディアではほとんど報道されませんが、かなりの数の小さなコミュニティが既に解体して消えていると思います。高台移転を進めるべきだということも語られています。しかし、なかなか進みません。子どもを抱えた若い世代の人たちは、ふるさ

とに残りたいと思っても、とてもそこに暮らしていける状況ではないということ、都会に出てそこに根を張り始めています。

今回の震災によって、これから30年ぐらいかけて向かい合うはずであった少子高齢化と過疎化をはじめとしたコミュニティの問題、高齢者の問題、さまざまな問題が我々の前に投げ出されていると思います。

阪神淡路大震災と今回の東日本大震災は決定的に違っていることがあります。神戸は震災からかなり早い時期に、復旧に向けて動き出しました。そのときの復興のための政府の機関では、廃墟になった神戸の町を合理的に復旧するということがテーマだったと思います。つまり、新しい社会をデザイン



幅広い世代の参加がありました

ンするといったことは必ずしも求められていなかった。とにかくインフラを旧に復するという意味で、復旧ということが自明のテーマでありえた。そして、復旧を許容する経済力が、まだ日本社会にありました。神戸という町も経済的にかなり裕福な町だったということもあると思います。

東日本大震災はそれとは違っています。まず、数百キロの太平洋の沿岸部に点在する村や町が軒並みやられている。軒並みやられているというのは、沿岸のやっと走れるようになった道路を、たとえば北からずっと丘を越えておりていくと一面の廃墟が広がっている状況が続いているということです。その中を通り抜けて、震災から一年後の3月、僕は気仙沼や南三陸、女川に行って本当に息をのみました。一年たっているのに、気仙沼の町の中心街はいまだに廃墟のよう、焼け焦げたにおいが垂れ込めている。南三陸町では復興に向けて何も始まっていない。女川は町中がひっくり返されたように何も無い。鉄筋コンクリートのビルが3つくらい足元から浮かされて倒壊している姿も見ました。

こうした被災地を歩いていると、震災前の町の風景、村の風景に、経済力でもって復元するという形

での復旧はありえないと感じてきます。そんなことを言うと反発を受けることが多いです。故郷に帰りたいのだと。でも、おそらく我々のこの時代の経済力はそれを許さないでしょう。残酷なことですが、それでも、そこから始めなければ前に進めない。

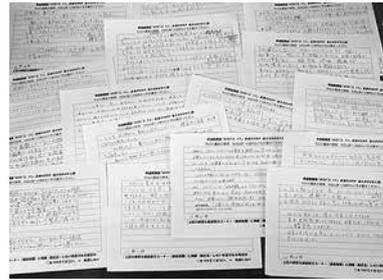
この考え方はコンクリートによる公共事業型の復興というものに対する批判、そして反省になります。今、動いているのはほとんど公共事業型の復興です。それを本当に被災地の人たちが求めているか。とても微妙だと思います。20年、30年の時間が早回しされてしまった。だからこそ今我々が問われているのは、ここから新しい社会をどのようにデザインしていくのかということ。

露呈した地域社会の脆弱性

1万8千人余りの犠牲者の中で、60%以上は高齢者でした。これは今回の大震災の大きな特徴です。災害というのは常に社会の最も弱い部分を直撃します。災害弱者といわれますが、今回の東日本大震災ではそれは高齢者でした。

たとえば、南相馬市の介護老人保健施設のヨッシーランドは、海から比較的遠いのですが、津波が

やってくるまで、1階部分の天井くらいまでやられました。そこでたくさん的高齢者が犠牲になり、高齢者を助けようとしていた介護のスタッフも犠牲になっていきます。一方、双葉郡の原発から近いある施設で、高齢者を置き去りにして逃げたと非難を浴びたところがありました。情報の混乱の中で決して見捨てたわけではないの



参加者の思いが詰まったコメントシート

に、ひとたびそういうイメージがつけられると徹底してたたかされる。でも、そのとき30km圏内にマスメディアはほとんどいませんでした。みんな避難していたのです。つまり、外からの偏った情報でそういう袋だたきが起こっていた。介護施設で働く人たちが、自分の命を犠牲にして介護する高齢者たちを守り、助けなくてはいけないという現実、これも隠されていた現実だと思えます。

なぜ高齢者の施設の被害が報道

の中で目立ったのか。それらの施設を訪ねてみると海辺にあるんです。なぜか。おそらく土地が安いのだろうと思います。確かに風景は美しいのだけれども、災害にぶつかつたときには逃げ場がない。災害のときに一番弱者になる人たちは、あらかじめ最も災害に対して強い場所に暮らすべきです。それをきちんと社会のデザインとしてつくっていくことが、我々に求められています。

市町村合併についても考えてみます。経済的な合理性を掲げて、周辺部の小さな村を、町と併せて市にするという合併が行われてきました。震災から半年たったところに被災地を歩いていて、震災直後の風景のまま置き去りにされたような場所に時折出会いました。話を聞いてみると、合併によって一緒になった周辺部の村なんです。とても単純です。村に役場があった時代、たとえば50人の職員がいました。そんな人件費は無駄だということと合併したわけですね。町場に市役所ができて、機能も人もそこに集められました。50人いた職員はもちろん全部チャラになつて、集められた中から、その地域に地縁のない人も含めて、半分の25名を張りつけたとします。そして何々市の何々地区の市役所出

張所で住民サービスを始めています。けれども、災害にぶつかつたときに太刀打ちできなかったんです。職員数がそもそも半分です。土地カンもありません。以前であれば、どこどこに歩けないおばあちゃんがいらつしゃるとか、村の職員が把握していたであろうに、全部解体してしまいますから、周辺部に目が届かない状況が生まれていた。経済的な合理性、無駄を省くということが、逆に被災状況を厳しいものになっているのです。

人口の半分が

高齢者になる社会

このような問題は、今後少数者の問題ではなくなるでしょう。人口は今の1億3千万人がマックスで、これから減っていきます。東日本大震災は、人口問題でいうと、この日本列島の歴史の中で、人口が最も頂点に達したときにぶつかっているんです。今から40年か50年後くらいには、日本列島の人口は8千万人台になるといわれています。そのうちの高齢者の割合は45%くらいだったと思います。これは半分の人たちが高齢者、つまり高齢者がマイノリティではない社会です。そうした社会が、災害に対してどう向かい合うのか。

東日本大震災はそのことを深刻な形で突きつけていると思います。南三陸町で3月12日に撮られた写真があります。背景は津波にやられて焼けてしまった町、そこらたくさんの人たちが手を取り合つて避難してくる。それを撮つた写真を、河北新報が大きく報じた。真ん中にいたのは老人を背負つた40代の女性です。隣にも同じくらいの年齢の女性がいます。南三陸町に行ったときに地域の人に確認したら、背負っていたのは中国人の花嫁さんでした。そして背負われているのは日本人のおばあちゃんです。隣にいたのも中国人の女性でした。15年か20年前くらいに、こちらにお嫁に来た方たちだろうと思います。土地の人たちはみんなそれを知っています。外の何も知らない我々は大変だねとしか思えない。

でも、その1枚の写真に凝縮されているのは、我々の社会の20年か30年先の光景なのかもしれません。高齢者が増えていく。人口が8千万人台になる。そのとき介護がどういう形で行われているのか。アジアからの花嫁さんたちを受け入れてきた日本の村は、人口問題をアジアからの花嫁さんたちで、ある意味では解決しようとしてきたのかもしれない。

新しい社会の

デザインに向けて

東日本大震災のテーマは復旧ではない。では何がテーマなのか。

繰り返しますが、全く新しい社会をデザインすることだと思います。

復興のシナリオを考えてみます。

南相馬市では津波によって広大な泥の海が出現しています。大規模な公共事業を興し、莫大な資金を

つぎ込み、排水施設を整え、塩を抜き、土壌を入れかえ、そこを田

んぼに戻す。ほとんどのところでは、それが行われようとしていま

す。しかし、田んぼに復旧しても、既に平均年齢75歳くらいの人たち

がその土地を守っていきけるでしょうか。話を伺ってみると、地域の

人たちはそのシナリオを望んでいません。

また、被災地では巨大な防潮堤を建てる計画が進んでいます。堤

防ができれば潮の流れも変わりま

す。海が見えないところで漁業はできません。おそらくこの漁業

は壊滅的な打撃を受けるでしょう。人間がこれだけ海岸に進出して、

そこ防潮堤をつくって暮らすよ

うになったのは、明治以降、人口が爆発的に増加し、同時に食糧増産のため水田を開発していったか

らです。今回の津波によって泥の海になった水田は、70、80年前までは潟か浦でした。これから人口

は急激に減っていきます。30年後、50年後を考えたときに、今あるコ

ンクリートの海岸線を維持することに合理性はあるでしょうか。

この震災で見つかったのは、そういう全く想定していなかったテ

ーマなのかもしれません。3・11の直前の状態に復旧するのか、そ

れとも百年前なのか。どこに戻るのかということは、これからの社

会をどのようにデザインしていくかということに直結しています。

もう一つのシナリオとして、僕は使えなくなった土地を再生可能

エネルギーの基地として使うことを提案してきました。そこを百年

前の美しい潟のある風景に戻して

やって、風光明媚な観光地に育て

ていけばいいと思っています。たとえば、風車の設置と泥の海を潟

に戻すプロジェクトは両立します。そしてそこから上がる売電によっ

て得られた資金を、そこに暮らすことができなくなっている人たちの

生活資金として利用する。そういった形でエネルギーを自分たち

で取り戻すことを手がかりとして、自分たちの自治や自立といったものを模索していく。そういう道筋

そこでポイントになるのは、僕は入会地*という発想だと思いま

す。百年前には、海や山や川はみんなが入会地として共同で利用し

ていました。でも明治以降の近代は、その入会地を解体し分割して

個人所有にしてしまった。でもそれは我々の未来にとっては自明の

前提にはならない。つまり、個人の所有という考えも括弧にくくる

ことをしなければ先に進めないというテーマを被災地は背負わされ

ているということです。それを少しずつクリアしていけば、それが

日本社会の未来のあるべき姿を先取りしていくことにもなるのかも

しれません。状況はとても厳しいですけども、前向きに生きようとする人

ちがずいぶんあらわれ、草の根の動きを始めています。とりわけ福

島の人たちは、原発に依存しない新しい社会を自らデザインするこ

となしには、あの土地で生き延びていくことができません。僕はそ

こから新しい日本社会のデザインが始まるのかもしれないという希

望を少しずつ持ち始めています。

*入会地(いりあいち)：一定地域に居住する住民が平等に利用、収益し

うる特定の権利が設定されている山林原野または漁場。

参加者からの質問

——気仙沼の唐桑地区にボラン

ティアに行ってきました。カキの

養殖をしている漁師さんと接し、

被災地で頑張っている姿をできる

限り周囲の人に伝えることを約束

してきました。しかしうまく伝え

られず、もどかしい思いをしてい

ます。どうしたら震災や原発の問

題に、自分の友達や恋人、家族に

少しでも興味を持ってもらえるで

しょうか。(20代・男性)

【赤坂】僕が3・11以降、若い人

たちにずっと語り続けてきたのは、

被災者に嫌がられてもいいから被災

地に行つてほしい。そこで何が

起こったのか、起ころうとしてい

るのか、それを見てほしいという

ことです。

あなたたちの世代は間違いなく

3・11世代になると思います。つ

まり、経済力も人口も急激に落ち

ていくときに、貧しい時代に戻る

のか、それとも身の丈に合った暮

らしのスタイルというものをつく

っていくきっかけになるのか。被災地にはあなたたち自身の未来をつくる手がかりがたくさんあると思うからです。恋人がいるのだったら、一緒に行けばいい。漁師さんたちが一生懸命立ち上がろうとしている姿を見ることで、きっと

あなたが言葉で語るよりも多くのことを彼女は感じるでしょう。被災地に残酷な形で転がっているのは、実は我々の共有の未来の風景

だと思っています。

阪神淡路大震災の16年後に東日本大震災があった。今度は10年後

か20年後に東京かもしれない。西日本かもしれない。いわば、我々

は「災後」ではなく「災間」を生かされている。その感覚を共有し、

そのために備えなければなりません。この言葉を言われた仁平典宏

さんという若い研究者は、だからこそ、無駄やすき間のある社会を

つくらなくてはいけない、これまでに切り捨てられてきた弱者を起点

にして、社会全体をデザインしな

くてはいけないと提案されています。「災間」という言葉はとても

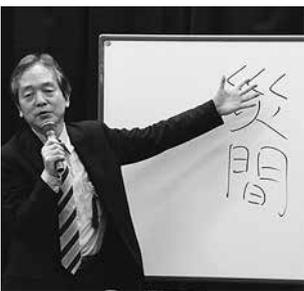
大切な言葉だと思います。

(文責 公民館)

*昨年12月1日に実施しました。

*この連続講座は3月まで続きます。第4回以降の参加者を募集

中です。(詳細は次ページ)



「災間」を説明する赤坂さん

これからの「ポスト 3.11 社会のカタチ 私たちのオモイ」

第4回 放射線の健康リスクと 対策を理解する

講師 島田 義也 (理学博士)

2011年3月の東京電力の福島第一原子力発電所の事故から、放射線の健康リスクについて深く知りたいと思うようになった方もいると思います。あれから、約2年がたとうとしています。もう一度、初めから放射線について学びませんか。

講師の島田さんには放射線の人体への影響、子どもを守ることについて、そして個人レベルから地域レベルまでの対策についてお話をさせていただきます。

〈島田さんのプロフィール〉

(独)放射線医学総合研究所発達期被ばく影響研究プログラムリーダー。専門は放射線発がんの生物学、胎児・子どもの放射線影響、医療被ばくに関する調査。

とき 2月9日(土) 昼2時~4時
ところ 公民館 地下ホール 定員 50名(先着順)

第6回 今後の大地震にどう備えるか ~立川断層と防災のコミュニティづくり~

講師 山崎 晴雄 (首都大学東京) ほか

とき 3月16日(土) 昼2時~5時
申込先 公民館 ☎ (572) 5141。申込時に参加希望の回をおしらせください。

〈図書室のつどい〉
ゴリラを通してヒトを知る

講師 山極 壽一 (京都大学)

30年以上にわたりアフリカ各地の熱帯雨林でゴリラの生態調査を行ってきた山極さんは、著書の中で「ゴリラを『鏡』にすることによって、ヒトとはいったいどんな動物なのかが見えてくる瞬間がある」と述べています。

今回は、ゴリラを通して、ヒトとはどういう動物なのかを考えてみます。

また、人間が内戦や自然環境破壊によってゴリラの棲息環境を脅かしているというアフリカの現状や、「エコ・ツーリズム」についてもお話を伺います。

〈山極さんの本〉『家族進化論』(東京大学出版会)、『ゴリラは語る』(講談社)、『野生のゴリラと再会する』(くもん出版) ほか

とき 3月2日(土) 昼2時~5時
ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)
*ご自由においでください。

第5回 シネボックス 公民館シネマトーク
『シリーズ「ニッポンの記録映画」vol.35』
『無常素描』

2011年 カラー 75分 DVD

製作 大宮映像製作所 監督 大宮浩一

東日本大地震から1カ月あまり。1人の映画作家が、尼崎の町医者と共に被災地へ向かっていた。瓦礫の山と広漠たる荒野、そこで出会った人々——はたして「復興」とは何を意味するのか? 私たちはどこへ行くのか? 文化庁「文化記録映画大賞」受賞作『ただいま それぞれの居場所』(2010年)の大宮浩一監督が静かに問いかける。

〈シネマトーク〉「震災を記録して」

お話し 大宮 浩一 (映画監督)

とき 2月24日(日) 昼2時~4時半
ところ 公民館 地下ホール
定員 85名(当日先着順)
*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

第7回 災害ボランティアの課題と可能性 ~くにたち市民にできること~

講師 野元 弘幸 (首都大学東京) ほか

とき 3月30日(土) 昼2時~5時

三原色で描く
キミ子方式水彩画展

講座「シルバー学習室 第33期」の水彩画展を行います。三原色と白の絵の具で誰でも絵が描ける“キミ子方式”で描いた「もやし」「毛糸の帽子」「空の絵」などを展示します。

障害者センター「あさがお」、キミ子方式水彩画サークル「絵筆の会」との合同展です。どうぞおいでください。

*「シルバー学習室」は市内に住む高齢者の方を対象に、料理、リトミック、自然観察、歴史、高齢者問題などを学んでいく中で、新たな自分の発見や、受講者どうしの交流・仲間づくりをしていく講座です。



講座の様子

期間 2月19日(火)~24日(日)
ところ 公民館 1階市民交流ロビー
連絡先 公民館 ☎ (572) 5141
障害者センター ☎ (573) 3344

< 平和講座 >

いわさきちひろの願った 子どものしあわせと平和

お 話 松本 ^{たけし} 猛 (ちひろ美術館常任顧問、
美術・絵本評論家)

かわいらしい子どもの水彩画で知られている、いわさきちひろ。しかし、そうした絵には、第二次世界大戦を体験したちひろの「世界中の子どもみんなに平和としあわせを」という願いが込められています。

いわさきちひろが亡くなって約40年。今日も受け継がれている絵に込めた平和への思いを、長男の松本猛さんにお話いただきます。子どもから大人まで、さまざまな世代の方と平和について考える機会にしたいと思います。

と き 2月17日(日) 昼2時～5時
と ころ 公民館 3階講座室
定 員 35名(先着順)
申込先 2月6日(水) 朝9時～
公民館 ☎ (572) 5 1 4 1



ツールを知って、活用しよう!

日本語教材学習会

地域で日本語学習のサポートをしている方を対象にした、日本語教材に関する講座です。

日本語学習のためのさまざまなテキスト(教科書)の特徴を知り、活動に生かしましょう。また、公共機関のパンフレット、チラシや雑誌などの写真やイラストも教材として活用できます。

日常生活において日本語学習者がどのような情報を必要としているのかを的確に把握し、より有効なツールを使って支援ができるようにするための実践的な講座です。

第1回 「日本語教材をくらべてみよう」

日 時 2月17日(日) 朝10時～12時
講 師 志村 ゆかり (一橋大学)

第2回 「おしゃべり型教材を使ってみよう」

日 時 2月24日(日) 朝10時～12時
講 師 高木 祐輔 (一橋大学)

と ころ 公民館 3階集会室
定 員 25名(先着順)
教 材 第2回ではテキスト『にほんご これだけ! 1』(ココ出版)を使います。
各自ご準備ください。
申込先 2月7日(木) 朝9時～
公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

【憲法講座】

福島から憲法を見つめ直す

お 話 吉原 泰助 (福島大学名誉教授・経済学)

2011年に東日本で発生した大地震と、それに伴って起きた災害や原発事故によって、被災地の多くの人々が健康や仕事などの「日常」を奪われ、今もその日常が脅かされたままの生活を強いられています。

この講座では、こうした憲法に保障された人権が否定されてしまう事態を、福島の視点から人権問題として考えたいと思います。

福島大学で学長まで歴任されながら、地域に根ざした活動をされてきた吉原さんに、震災後の福島の状況と原発事故の問題の深層に迫るお話を伺います。

暮らしの視点から、憲法や人権を考えてみませんか。

と き 2月16日(土) 昼2時～4時
と ころ 公民館 地下ホール
定 員 50名(先着順)
申込先 2月6日(水) 朝9時～
公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

<多文化共生事業>世界の貧困と私たち

南北問題を再考する

— 「南」は本当に貧しいのか —

講 師 勝俣 誠 (明治学院大学)

ヒト・モノ・カネ・情報が地球規模で活発に動く今、世界で起きている貧困のメカニズムと南北問題を改めて考えてみませんか。

これまで格差や貧困を縮小させる目的で行われてきた、「北」による「南」への開発援助。しかしその開発の現場ではさらなる社会的・経済的格差の拡大や、環境破壊、マイノリティ集団の弾圧が行われ、そもそも何のための開発なのか、わかりづらくなっているといえます。

世界で起こっている格差や貧困はなぜ生じるのか、「南」は本当に貧しいのか。長年アフリカの地域研究と国際経済を研究されてきた勝俣さんにお話を伺い、「北」の私たちが向き合うべき問題を考えます。

<勝俣さんの本>

『脱成長の道』(編著、コモンズ)、『世界から飢餓を終わらせるための30の方法』(監修、合同出版)、『アフリカは本当に貧しいのか』(朝日新聞社)ほか

と き 2月21日(木) 夜7時～9時
と ころ 公民館 3階講座室
定 員 30名(先着順)
申込先 2月7日(木) 朝9時～
公民館 ☎ (572) 5 1 4 1



男性の料理教室

in 南市民プラザ

= 和風家庭料理 =

今回は体の温まる和風の家庭料理を作ります。

メニューは魚のホイル焼き、根菜の柚味噌かけ、呉汁、ごはん、即席漬けを予定しています。栄養バランスを考えたメニューを、ご家庭の料理のレパートリーに加えてみてはいかがでしょうか。

講師の説明の後、グループに分かれて協力しながら料理を作ります。今まで料理の経験の無い方も、どうぞお気軽にご参加ください。

※会場がいつもと異なりますので、ご注意ください。

講師 北川 みどり (管理栄養士)

とき 2月17日(日) 朝10時～昼1時

ところ 南市民プラザ 調理実習室

定員 16名(先着順)

費用 一人800円(予定額)

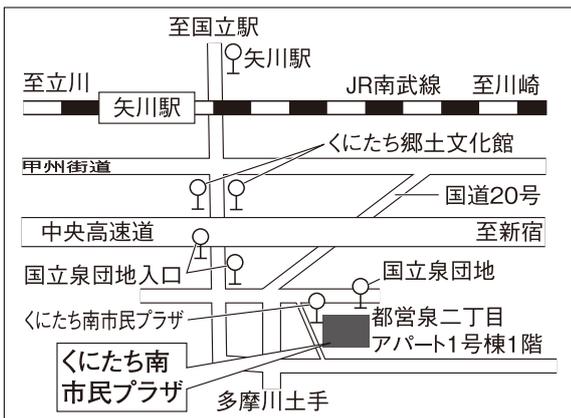
※2月15日(金)までに公民館へお支払いください。お支払いのない場合は、キャンセル扱いになります。受付時間：朝9時～夕5時(月曜日以外) 食材購入後のキャンセルは実費を負担していただきます。精算は教室の当日に行います。

持ち物 エプロン、頭巾(タオルでも可)、筆記用具、ポリ袋(ゴミ持ち帰り用)

申込先 2月7日(木) 朝9時～

公民館 ☎ (572) 5141

南市民プラザ付近の地図



〈北地域出張講座〉 はじめての方のための 盆太鼓にチャレンジ!

～楽しくたたいて異世代交流～

盆踊りの立役者、盆太鼓の打ち方を基礎から学んでみませんか?

日本の太鼓の歴史はとても古く、今日でも祭りや行事に欠くことのできない存在となっています。

今回は初めての方を対象として、バチの持ち方から始めます。子どもから大人まで、幅広い世代の方の参加をお待ちしています!



回	日 時	内 容
1	2月24日(日)	オリエンテーション(お話・DVD観賞)
2	3月10日(日)	たたいてみよう①～盆太鼓実習～
3	3月24日(日)	たたいてみよう②～盆太鼓実習～

講師 澤井 昭治 (青柳在住)

とき いずれも昼2時～4時

ところ 1、3回目…北福祉館
2回目 …第四小学校 体育館

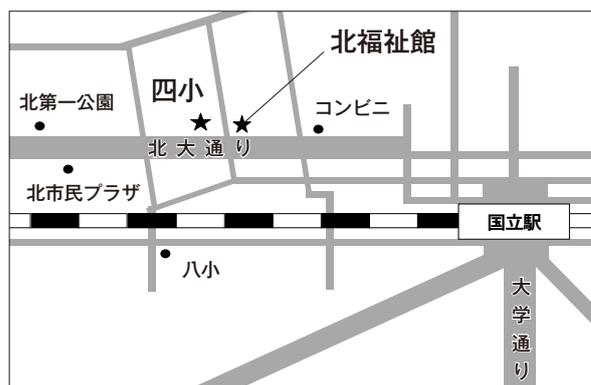
持ち物 飲み物、タオルなど

定員 子ども(小学3年生～中学生) 10名
大人(高校生以上) 10名(先着順)

申込先 2月7日(木) 朝9時～
公民館 ☎ (572) 5141

*用具はこちらで用意します。

会場周辺地図



国立駅から徒歩15分程度

公民館の窓

陶芸講座を終えて

しようがいしゃ青年教室陶芸講座は、しようがいしゃと健常者が一緒に陶芸を楽しんでいます。

今回は初めての参加者が多く、最初はぎこちない雰囲気でした。けれども少しずつ「それ、どうやるの」「土を触ったのは久しぶりだわ」などの会話がちらほらと出てきました。そして梅雨が明けたころには健常者もしようがいしゃも、わいわいがやがや、としながら共に作品を作っていました。私は参加者にあつた「垣根」が陶芸を通して、しだいに取り払われたように思えました。

終了間際の12月に差しかけたころには最初のぎこちなさがうそのような雰囲気になったのを思うと、交流が互いの理解を深める大切な方法だと実感できました。

(T・W)



滝乃川学園の陶芸室にて

ひろば

(8ページにもあります)



シルバー唄声クラブへのお誘い

誰でも知っている懐かしい歌をアカペラで楽しく歌いませんか。60歳以上の方を対象とし、年会費は千円です。歌の指導者はいません。ぜひご連絡ください。

日時 毎週月曜日 昼1時半～3時
場所 富士見台防災センター
連絡先 新里(577) 1062

水泳「CFC」会員募集

女性の皆さん、冬場の運動不足解消に泳いでみませんか。初級、中級、上級に分かれ、それぞれ優秀なコーチの指導で楽しく泳いでいます。会員は女性のみ。体験可。

水泳会員募集 かもめクラブ

寒い朝のひととき。目の前には暖かい、春の息吹が聞こえてきます。さあ、4人のコーチの指導を受け、一緒に健康を目指して楽しく泳いでみませんか。

日時 毎週金曜日 朝10時～12時
場所 総合体育館 室内プール
連絡先 上林(572) 1089

やさしい英会話

英語学習は頭の運動。リスニング、発声、簡単な英会話等の基礎練習、そして月2回程外国人講師との交流を予定しています。楽しく学び、脳の活性化を図りましょう。

ロビーの利用申込み

2カ月前から行えます
今月より、1階市民交流ロビーの利用申込みが2カ月前の第一土曜日から行えるようになりました。各会場の利用申込み開始日は、以下の通りです。

コピー

2月2日(土) 3月・4月分
3月2日(土) 5月分
4月6日(土) 6月分

ほかの会場

2月2日(土) 3月分
3月2日(土) 4月分
4月6日(土) 5月分

ご不明な点は、公民館までお問合せください。

掲載写真募集中!

「ひろば」に掲載する、国立のまちの風景や行事、自然などの写真を募集しています。毎月1、2枚掲載予定です。ご協力いただける方は、公民館までご連絡ください。



早春の田園風景—昭和30年代 谷保—
撮影 岡橋邦成さん(中)

〈社会体育事業〉 「街を・山を歩く」第4回目

日時 3月19日(火) ※雨天中止
集合 一橋大学西門前 朝8時半
実施方面 青梅方面
対象 市内在住、在勤者
パンフレット

市役所3階生涯学習課、公民館、総合体育館、北市民プラザ、南市民プラザで、2月28日(木)より配布します。

申込みについて
日程、コース、申込方法など、パンフレットの内容をご確認の上、3月5日(火)から13日(水)までに下記へお申込みください。

申込・問合せ先
教育委員会 生涯学習課
社会教育・体育担当 ☎(576) 2107 (直通)

公民館運営審議会報告

1月8日(火) 第3回定例会を開催。委員14名、館長、職員2名が出席。傍聴2名。

前回の議事録確認

公民館事業概要の説明

- ① 公民館運営審議会運営事業
 - ② 主催事業・会場提供事業
 - ③ 広報発行事業
 - ④ 公民館図書室運営事業
 - ⑤ 公民館施設維持管理事業
- について館長から説明あり。その後、質疑応答。

報告事項

- 公民館だより編集研究委員会 2月に講師を招いて学習会を開催予定。
- 社会教育委員の会

12月18日開催。3月に答申を提出する予定。

○ 東京都公民館連絡協議会 2月17日第3回委員会研修会の予定。テーマは「厳しい財政状況の中での公民館運営」

○ 第28期公運審の報告書「国立市公民館運営審議会のあり方」について山家委員長から説明あり(公運審の役割、開催回数、委員数、委員の選考方法など)。その後、質疑応答。

協議内容

・ 社会教育学習会を3月12日(火)夜に開催予定。公運審は午後6時から繰り上げ開催。次回は2月12日(火)午後7時15分から。傍聴歓迎。(戸井田)

今月の公民館 (2月、3月初)

*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 9日(土) 昼 ポスト3.11社会のカタチ私たちのオモイ 第4回「放射線の健康リスクと対策を理解する」
- 16日(土) 昼 「福島から憲法を見つめ直す」
- 17日(日) 朝 男性の料理教室 in 南市民プラザ 「和風家庭料理」
- 17日(日) 朝～「日本語教材学習会」
- 17日(日) 昼 平和講座「いわさきちひろの願った子どものしあわせと平和」
- 19日(火)～24日(日)「キミコ方式水彩画展」
- 21日(木) 夜 世界の貧困と私たち「南北問題を再考するー「南」は本当に貧しいのかー」
- 24日(日) 昼～「盆太鼓にチャレンジ！」
- 24日(日) 昼*ポスト3.11社会のカタチ私たちのオモイ 第5回 公民館シネマトーク「無常素描」
- 3月2日(土) 昼*図書室のつどい 「ゴリラを通してヒトを知る」

ひろば

(7ページにもあります)



なかよし-富士見台-

撮影 大島照代さん (谷保)

公民館図書室 休室のおしらせ

3月4日(月)から7日(木)まで 本の点検・整理のため休室します。

異文化コミュニケーション

「WING」2月の定例会は、「パングラデイシユの文化と諸事情」について電気通信大学留学生のハデイ・ムハッドさんにお話を聞きます。ぜひご参加ください。

日時 2月21日(木)夜7時～9時
場所 一橋大学内 国際交流会館
連絡先 芦沢(576) 0474

第30回 滝乃川学園 作品展

利用者の方が作られた陶芸、織物、木工、ビーズ他の作品展等
日時 2月7日(木)～12日(火)
朝10時～夜7時(最終日は夕5時)

場所 ギャラリーフロム (フロム中武6階)

連絡先 実行委(575) 1721

茶会 (サークル訪問257)

公民館の和室で行われている裏千家茶道のサークルと聞き、茶席に何う緊張感が少し薄らいで、楽しみに変わった。私にとっては30年以上前、20歳のころにほんの少しかじった茶道、いつも冷や汗も

のだった。年末の金曜日の午前10時、床の間には掛軸、椿が活けられ、新しくなった畳に日差しが注ぐなかで、7人の方が集っていた。「茶香会」は元「くにたち婦人の会」の文化サークルの一つで、40年以上続く。一時は会員が40人にも上ったこともあるという。茶道具も最初の会員が公民館に寄付したものを継いで使っている。



凜とした静かな時間が流れる...

「気楽に茶道を習えるところが、公民館のサークルのよさ」という。婦人の会は2009年に閉会したが、それぞれのサークルは脈々と続いている。

初代の太田宗重先生から笹山てる子先生に替わり、1年前笹山先生がやめられた後は、「季節に沿って順にやっつけていきましょう」と自分たちで教え合っている。第1～3金曜日、当番が9時から季節の菓子、花を用意し、水屋の準備をする。10時ごろ皆が揃い、12時まで開かれる。

今日は正月の台子点前の稽古とのことで、交代でお点前が続き、凜とした静かな時が流れる。時々、先輩方から指導の声がかかる。「結婚して国立に引越したとき、1年間サークルに入った。20年後、子どもの手が離れて、またお茶がやりたくて戻ってきたの」、「私は昔、会社のクラブで習ったの。介護が終わって入会したのよ」

「忙しい毎日の中で、その時間だけは落ち着いて、自分の世界に入る。一服のお茶を点てていただく時間を一緒にしませんか。春は窓一面の桜が舞台のようですよ」

2か月前に入会した方のお点前で、私も薄茶をいただいた。

連絡先 中西(573) 3420

〈文・写真 富田和枝〉